

産業構造審議会産業技術環境分科会研究開発・評価小委員会における  
検討について（案）

世界の頭脳を積極的に取り込みつつ、創造的な技術シーズが生み出され、これが迅速に事業化につながる世界トップレベルのイノベーション環境を我が国に構築するために必要な方策について、以下の項目を中心に検討を行う。

1. 革新的な技術シーズが迅速に事業化に橋渡しされるためのシステムのあり方

- 国、大学、公的研究機関、企業（大企業、中堅・中小・ベンチャー企業）等を一つのシステムとしてみた場合、それぞれの役割分担と連携はいかにあるべきか
- 世界最先端の橋渡し研究開発機関として最大限の成果を上げるために、産業技術総合研究所の事業はいかにあるべきか
  - ・ 研究テーマと目標の設定のあり方
  - ・ 基礎研究を実施する大学や公的研究機関などとの連携のあり方
  - ・ 研究成果を最大限事業化に結びつけるための、企業への技術移転、知財マネジメントなどのあり方
  - ・ 評価のあり方
- 革新的な成果が生み出され、これが迅速かつ最大限事業化に結びつくために、大学、研究機関、企業など多様な主体をネットワーク化して実施される国の研究開発プロジェクトはいかにあるべきか
  - ・ 研究テーマと目標の設定のあり方
  - ・ プロジェクトの実施に際して弾力性と柔軟性を確保したマネジメントのあり方
  - ・ 研究成果を最大限事業化に結びつけるための、企業への技術移転、知財マネジメントのあり方
  - ・ 評価のあり方
- 大企業に比べて市場規模が小さくても機動的かつ積極的に市場創造にチャレンジできる中堅・中小・ベンチャー企業に対する支援はいかにあるべきか

○企業がリソースを競争領域に集中するための産学官連携等の役割分担のあり方はいかにあるべきか

○産学連携を進めるために大学の制度のあり方はいかにあるべきか

## 2. 産業競争力の強化、新規産業の創造のために必要な技術シーズを創出するためのシステムのあり方

○産業競争力の強化、新規産業の創造のために必要な技術シーズをどのように特定し、大学等で行われる基礎研究に反映させるべきか

- ・最先端の技術シーズ
- ・産業の基盤を支える技術であって技術革新の可能性を有するもの

○将来の産業技術に繋がり得る学術領域における異分野融合や境界領域の研究を進めるためにはどうすればよいか

○将来の産業の発展のための先端的かつ重要な領域（量子コンピューター、人工光合成等ディスラプティブな技術など）において、我が国を世界的な研究の拠点とするためにどのような政策が必要か

## 3. イノベーションを担う人材のあり方

○複眼的な研究人材をどのように育成すべきか

- ・大学院教育のあり方

○研究開発マネジメント人材の育成のあり方

- ・プロフェッショナルとしての研究開発マネジメントのあり方
- ・若手人材の育成のあり方

○産業界に必要な基盤技術を支える人材の育成・確保のあり方

○人材の流動化をどのように進めるべきか

○産学官の結節点としての産業技術総合研究所の役割はいかにあるべきか